

次期学習指導要領 1枚まとめ｜小学校

情報の領域（総合） 小学校

小は総合に「情報の領域」、中は新教科、高は情報科を充実

10秒でいうと 教科は作らず総合に「情報の領域」を新設。3・4年は最大30、5・6年は最大35コマ程度

審議まとめでは、小学校に「情報」という独立した教科を作るのではなく、総合の時間（次期は「総合的な探究の時間」とする方向）に「情報の領域」（仮称）を加える案が示されています。総合は「探究の領域」と「情報の領域」の2つで構成する案です。必要な時数は、3・4年が各学年最大30コマ程度、5・6年が最大35コマ程度の見込みです。小学校では令和10年度から段階的に先行実施する方向です。

1 総合が「探究」と「情報」の2つの領域に

小学校の総合は「探究の領域」と「情報の領域」の2つで構成する案です。情報技術を学ぶこと自体が総合の目的だと誤解されないよう、情報の領域は探究や各教科の学びを支える土台と位置付けられています。小学校では「活用」を中心に、体験的な活動を重視する方向です。 P74 P240 P251

授業では 1学期に情報の領域で調べ方やまとめ方を集中的に学び、その力を2学期の地域の探究に生かす、といった計画が考えられます。

2 「ミニ探究ユニット」と「情報ブロック」

情報の領域では、2種類の学びを組み合わせる方向です。短い探究の中で情報技術を使う「ミニ探究ユニット」と、基礎を学ぶ小さなまとまり「情報ブロック」です。ミニ探究の例として、マイルールづくり、ロボットを動かすプログラム、生成AIの特性をふまえた作品制作が示されています。 P240 P251

授業では 端末の便利さと困ることを調べてから「タブレットのマイルール」をクラスで作り、1か月後に見直す、といった授業が考えられます。

3 情報を見極める力を学年で積み上げる

偽・誤情報を見極めるメディアリテラシーを、学年を追って育てる例が示されています。3年は情報の特徴や偽・誤情報を知ります。4年はAIの出力も含め、情報をうのみにしない姿勢を育てます。5・6年はSNSの特性などもふまえ、多角的に判断する力へ発展させます。 P248 P251

授業では 同じ出来事を伝える2つの記事を比べ、どこが違うか、だれが発信したかを確かめる、といった授業が考えられます。

4 1・2年は各教科で基本操作、国が動画教材

1・2年では、各教科の学習の中で文字入力や写真の撮影などの基本的な操作に慣れる方向です。IDやパスワードの管理、許可なく人を撮らないことなども一緒に学びます。国は、授業でそのまま使える動画などの教材を開発し、少なくとも年1回程度更新するとしています。 P251 P262

授業では 生活科の観察で写真を撮るときに、「人を撮るときは許可をもらう」という約束を一緒に確かめる、といった指導が考えられます。

ほかにも変わること（小学校）

- 新教科・領域の時数は、他の教科から「広く薄く」減らして生み出す方向 P78 P79
- 小学校の総合的な探究の時間に「情報の領域」を加える案 P78 P240 P250 P251
- タイピングや端末操作など、各教科で教えていた内容を新教科・領域へ移す方向 P243 P257
- 全面実施の前から段階的に先行実施する方向 P79 P262
- 教員不足への対策：研修・免許講習・遠隔授業など P239 P261 P262
- 国が授業でそのまま使える動画・教材を作り、年1回以上更新する P240 P251 P254 P262
- メディアリテラシー・AI・プログラミング的思考を小中高でつなげて育てる P248 P249 P262

原田英語.com 次期学習指導要領ナビ｜
https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/
｜2026年11月4日 版

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。出典：審議まとめ（2026年10月5日）。告示前の方向性です。

© 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ（https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）｜情報の領域（総合）（小学校）1枚まとめ｜研修・校内での印刷・配布OK（連絡不要）